

令和2年度

第3回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会

日 時：令和2年12月17日（木）

14：00～15：30

場 所：関東森林管理局ほか

次 第

1 開催形式

資料送付による書面開催及び、オンラインによるWEB会議開催とし、各委員より国有林材の供給調整について意見聴取する。

2 各委員からの意見聴取事項

（1）木材の需給動向について

- ① 木材の需給、価格等の動向
- ② 関東局における国有林材の供給状況

（2）現在取り組んでいる国有林材の供給調整について

令和2年度 第3回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 出席者名簿

(五十音順・敬称略)

所 属 ・ 役 職 名	氏 名
株式会社フジイチ 代表取締役社長	石野 秀一
福島県森林組合連合会 常務理事	遠藤 誠寿
栃木県林業木材産業課 木材産業担当 課長補佐	川上 晴代
協和木材株式会社 代表取締役社長	佐川 廣興
東京合板工業組合 業務統括室長	佐々木 祐子
茨城県森林組合連合会 代表理事専務	佐藤 信聡
群馬県森林組合連合会 木材部長	鈴木 克志
有限会社平子商店 専務	平子 美穂子
栃木県森林組合連合会 木材流通課 課長	田中 幸夫
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 研究コーディネーター(地域イノベーション推進担当)	堀 靖人

関東森林管理局

官 職	氏 名
森林整備部長	山口 輝文
資源活用課長	古澤 茂昌
企画官(木材需給対策)	渋谷 英夫
素材供給係長	齋藤 悠
供給計画係	濱砂 俊介

令和2年度 第3回関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 議事概要

1 開催日時・場所

令和2年12月17日（木）14:00～15:30

関東森林管理局 資源活用課事務室及び各委員事務室等（書面及びWEB会議）

2 議題

- (1) 木材の需給動向について
- (2) 現在取り組んでいる国有林材の供給調整について

3 検討結果

需要動向や各委員からの状況報告等を総合的に勘案した結果、コロナ禍の中で、木材需要の先行きの動向が不透明であることから、現在取り組んでいる国有林材の供給調整を継続する必要がある。

また、「立木販売の公売延期」の措置については、各都県林務担当部局や素材生産事業者等川上の関係者の意見（意向）などから、民有林材の需給に影響を与えないと想定される地域においては公売延期の措置を緩和するなど、地域毎に柔軟な対応をする必要がある。

4 概要（状況報告等）

(1) 木材の需給動向と今後の見通しについて

- 原木価格は（令和2年の）10～11月に各地で上昇したが、12月には落ち着いてきた。
製材などの製品需要が落ちる中、原木が大きく値を下げなかった事は、関係者が適切な判断を行ったことや各種施策が効果的に働いた結果と考える。
- 山側が伐採期に入り、市場への素材の入荷量は回復しつつあるものの、依然として十分でない。
また、スギ柱材用原木は市の開催の度に価格が上昇し、一時は1万4～5千円まで上昇したが、11月後半には一服感がみられる。一方、製材品の需要は減少しており価格も下がっている。原木価格に比べ製品の価格回復は遅れており、コロナ禍が続く中で先行は依然不透明である。
- 栃木県森連の共販所が10月に開催した秋の優良木材展示会は昨年並みの出材量となったが、民有林の一部地域では出材量が少ない状況が続いている。
製品価格は例年と比較すると、全体的に1割程度低い水準となっている。プレカット工場の加工量や受注量が回復傾向にあるとの報道もあることから、国産材需要の回復や製品価格の上昇に期待したい。
- 素材生産業者は年末に向け生産量を増やしているが、原木価格の動向として秋に高値を付けた後は、原木価格が下がると見込んでいるため、高いうちに売りたい様子。現在の原木価格は昨年と比較しても高い水準にある。
製材品は予想を上回る荷動きが続いている。これは、需要の増加と言うよりは、需要側が仕入れを抑え在庫を極力減らしていたが、需要の落込みが予想より軽微で済んだことの方が要因としては大きいと言える。
- 原木価格は西日本で先行して上昇していたが、ここにきて東日本でも上昇の動きが見られる。製品の荷動きは戻りつつあり在庫も減少しているが、価格については従前に比べ低水準で推移。一方、原木生産が遅れているため、一部では丸太の取り合いの様相が強まっており、「原木高、製品安」の苦しい状況が当面、続くものと思われる。

- 当森林組合連合会が運営する木材流通センターでの原木取扱量は、ほぼ令和元年度並み。現在は国有林の委託販売が主力であるが12月で終了の見込み。また、民有林からの出材は少ないが、徐々に入荷しつつある。公共需要が大きいようだが、住宅需要の先行きは不透明である。
- 今年10月以降、原木の需要が増え始め、山側の素材生産は増えているが依然として原木不足は解消されていない。今後の素材生産量は増えてくると思うが、杉小径材や柱材向けは需要量を供給できるようになるにはまだ時間がかかる。
- 原木価格は上昇しているが市場への入荷はままならない状態である。下刈り作業の終了により生産事業に人員配置が可能になり、原木の生産が活発になると思われる。また、現在行われているふくしま森林再生事業の工期が3月までとなっているため、これから出材が始まると予想される。
- 今年はコロナ禍で製材品の荷動きが止まり、その後の回復の見通しがつかなかったことから、原木価格の急激な値下がりにつながった。その影響から森林組合、素材生産業者の出材が梅雨の時期と重なり、原木市場の販売量が減少し、製材工場等の原木在庫がなくなり始めた。その後、今年の9月ごろから製材工場等による原木の手当てが始まると原木価格が動き始め、10月後半にはスギ、ヒノキ共に急騰した。

(2) 国有林材の供給調整について

- 地域によっては原木不足がみられることから、立木販売も含め、国有林材の供給を増やしていただきたい。
- 「立木販売の公売延期」については原木の需給が逼迫した地域もみられることから、地域によっては緩和してもよいと考える。
- 「立木販売の公売延期」については原木価格が上昇に転じた遅くとも9月には緩和し、供給調整そのものの終了を宣言するべきであった。
- 現在の原木価格は令和元年度と比較して高い水準にあり、供給を絞ってまで原木価格を維持する必要性はなく、供給調整を終了しても良いのではないかと思う。他方、素材生産業者が素材価格の高いうちに出材をしようと急ぐ動きもあり、春先に出材過剰から原木在庫が増えすぎることの懸念もある。
- 民有林材の供給見通しは依然として不透明なことから、木材需給の安定化に努める意味からも、国有林材の安定的な供給が必要であり、新たな供給調整の取組を実施する場合には、地域の実情を勘案し、適切に行われることを要望する。また、各都県庁からの要望、意向についても判断材料になると考える。
- 先行きの需要に多くを望めない中では、現状の供給調整の取組を維持する事が良策ではないか。供給調整により価格が平年並みに戻ったからと急いで供給調整を緩和するのではなく、市況動向を注視しながら、本委員会も含め関係者と頻りに意見交換を重ねながら今後の方向性を検討する、という考えも必要ではないか。